

MIDORI 理論の各フェーズにおける住民参加の可能性の検討

—住民参加のもとに社会診断から運営政策診断を行った事例—

○^{ふじたみ ゆき}藤田美由紀、中村譲治*、堀口逸子*、筒井昭仁**、森下真行***

安浦町役場保健福祉課、*NPO 法人ウェルビーイング(旧福岡予防歯科学研究会)、**福岡歯科大学予防歯科学講座、

***広島大学歯学部予防歯科学講座

概況

安浦町は、広島県の瀬戸内沿岸のほぼ中央に位置し面積 63.53km²、人口約 13,400 人(年間出生約 90 人)、主産業が農業、水産業(かきの養殖)の町である。町は 4 地区に分かれ、その内 2 地区に歯科医院が 3 軒ある。

目的

安浦町では、これまで乳幼児を中心に歯科保健の推進に取り組んできたが、他の健康問題に比べ「歯」についての関心は低い状況にあった。そこで保健婦を中心としたスタッフで検討した結果、MIDORI 理論を用いて、家庭への波及効果が期待できる女性の歯周病予防の取り組みを開始することとした。開始するにあたり QOL、口腔状態、保健行動、知識などの実態を把握し、実効性のある計画を策定することとした。

対象と方法

診断に必要な情報を得るため 30 代から 50 代の女性を対象とし、MIDORI 理論をベースにした質問紙調査(FSPD34 型)を実施した。NPO 法人ウェルビーイングの支援のもとに地元歯科医師、広島大学歯科医師、在宅歯科衛生士、医院勤務の歯科衛生士、住民(各年代)、保健婦が集まり調査結果の検討を行った結果、歯周病予防対策の対象を 30 代女性とすることを決定した。その後、疫学診断から教育・組織診断にあたっては、1999 年 11 月～12 月に保健センターを利用した 30 代の女性 21 人に対して、行動・環境診断により優先プログラムとなった 2 つの保健行動についてのヒアリング結果を参考資料とした。次いで運営政策診断では、決定された 2 つの保健行動の目標値達成のための健康教育プログラムを作成した。プログラム作成には、歯科医師(町内 3 名・近隣町 2 名)、広島大学歯科医師、県健康対策課歯科医師、在宅歯科衛生士(5 名)、医院勤務の歯科衛生士(1 名)、30 代住民(2 名)、役場担当課長、係長、保健婦(4 名)が関わった。

結果

1) 社会診断

調査結果を 30 代、40 代、50 代の世代別で検討したところ、年齢が上がるにつれ歯周病の自覚症状を持つ人の割合が 82%、87%、89%と増加していた。そのため、健康教育で予防可能な世代を 30 代と考えた。また、30 代の女性の歯に関する困りごとを有している者は 41%と高い値を示していた(図 1)。

2) 疫学診断

30 代の女性では、自覚症状のない者の割合が 18%であった。そこで、2001 年 9 月までに歯周病の自覚症状がない者の割合を、現在の 18%から 55%にするという目標値を設定した。

3) 行動・環境診断

健康教育を中心とした取り組みを考慮しながら、改善すべき保健行動の優先順位を決定した。最優先プログラムは、①歯間ブラシ・フロスを使う、②定期健診を受ける(年 1 回以上)となった。最優先プログラムの目標値

は、歯間清掃具の利用者を 32%から 55%に、定期健診受診者を 14%から 30%にすることとなった。

4) 教育・組織診断

決定された 2 つの保健行動を実践するために必要な 3 因子について診断を行った。その結果、「歯間清掃具の使用」の準備因子として「歯間清掃具を使えば歯周病を予防できる」、強化因子として「専門家に誉められる」、実現因子として「親子で勉強できる場」などがあがった。また、「定期健診の受診」の準備因子として「生涯自分の歯でおいしく食べたい」、強化因子として「子供の保育がある」、実現因子として「歯科医院にプレイルームがある」などがあがった。

5) 運営政策診断

保健行動のうち「歯間清掃具の使用」については、1 時間程度のロングプログラム（出張教育）と 5~10 分のできるショートプログラムの 2 種類の健康教育プログラムがたてられた。また、「定期健診の受診」の受け皿づくりのために、安浦町及び所属する歯科医師会の参加を得、担当課長とともに検討した。その結果、町が定期健診受診のためのきっかけづくりと広報を充実させ、一方で歯科医師、歯科衛生士による月 1 回の勉強会の開催とパンフレット作成が決定され、両者の役割分担が明確になった。

まとめ

MIDORI 理論をベースとした質問紙調査結果は、住民と専門家が共に政策決定に関われる判断材料となり、各診断過程において住民参加を容易にした。健康教育プログラムづくりは、教育担当者だけでなく歯科医師、歯科衛生士、大学、行政（県・町）、そして、町民代表（30 代女性）も加わり、住民の声を参考にし、実効性のある物を作成することができた。

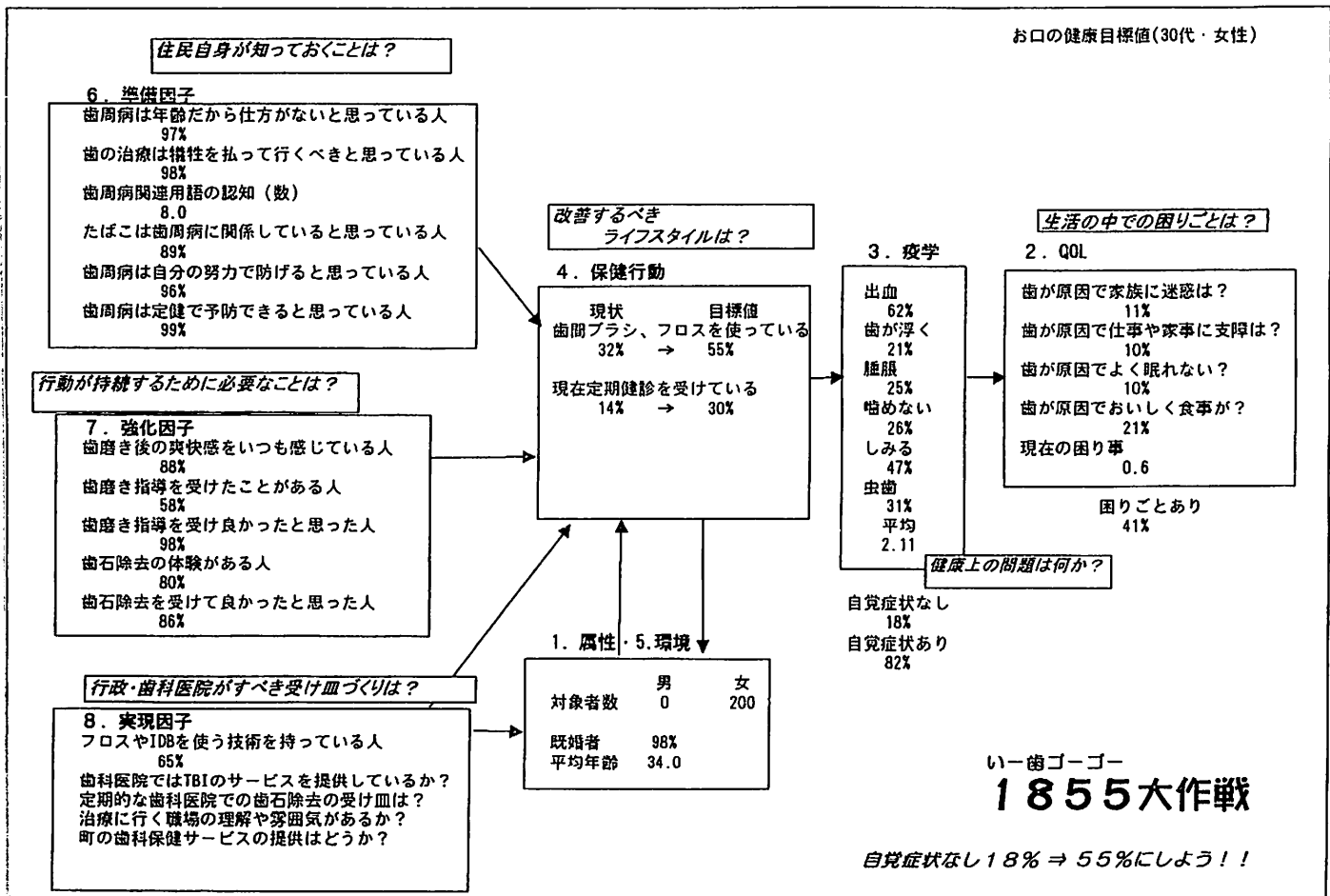


図1 安浦町1855（いー歯ゴーゴー）大作戦